

専修学校制度制定30周年記念式典

主催：全国専修学校各種学校総連合会 後援：文部科学省 協賛：財団法人 専修学校教育振興会



専修学校制度制定30周年記念式典

職業教育の

かなめとして、

大いなる飛躍を

専修学校は、
新たなステージへ。

専修学校制度制定30周年記念式典（主催：全国専修学校各種学校総連合会、後援：文部科学省、協賛：財団法人専修学校教育振興会）が、2005〔平成17〕年7月11日、東京のアルカディア市ヶ谷で、塩谷立文部科学副大臣、森喜



上：式典で祝辞を述べる塩谷立文部科学副大臣。

専修学校は、制度発足以来30年間、
着実な歩みを進めてきました。
職業教育のかなめとしての使命のもと、
新たな時代の創造に踏み出しました。



下：式典で式辞を述べる中込三郎会長。



右：中込三郎会長から全専各連顕彰を受ける専修学校等振興議員連盟の森喜朗名誉会長。

朗専修学校等振興議員連盟名誉会長・前内閣総理大臣をはじめ、多数の来賓臨席のもと、盛大に開催されました。
専修学校制度は、昭和50年7月3日、第75通常国会において成立。「学校教育法の一部を改正する法律」が7月11日に交付されました。この日から30年目を迎え、「職業教育の日」と定めたこの日、さらなる発展に向け、新たな旅立ちをしました。

小泉純一郎内閣総理大臣祝詞（要約）

専修学校制度が創設されてから30周年を迎えられ、本日ここに記念式典が挙行されることを、心よりお慶び申し上げます。

昭和50年に制度が創設されて以来、専修学校は、実践的、専門的な職業教育を行う中核的な機関として、産業界の様々な分野に有為な人材を多数輩出し、社会から高い評価を受けてきました。

専修学校には、産業界と力を合わせて、働く意欲と能力を高める教育を一層充実させ、産業の第一線で活躍する優秀な職業人の育成に努められることを期待しています。



専修学校のさらなる発展を祈念して鏡開き。



専修学校の30年の歩みを振り返りながら、和やかに歓談するひととき。



祝賀会で挨拶する町村信孝外務大臣、専修学校等振興議員連盟会長。

**わが国の職業教育をになう
学校群として、社会のニーズに
即し、すべての人に教育の場を**

全専各連・中込三郎会長は、式典の中で関係各位に感謝の意を表すとともに、専修学校が学習者の視点に立ち、社会のニーズに対応して教育内容の充実に努めてきたことを報告。

さらに、4年制専門学校卒業生への大学院入学資格付与、新しい称号「高度専門士」の付与、eラーニングの拡大など新たな施策と、新しい時代の「教育基本法」における、「我が国の職業教育体系」の構築を訴えました。

塩谷副大臣からは、「専修学校は、社会の変化に即応した実践的、専門的な職業教育を行う中心的な機関として発展を続けてきました。今や専門課程には高等学校卒業生の2割以上が進学するなど、我が国の高等教育機関の重要な一翼を担うとともに、多様な職業、年齢層のキャリア形成を担う生涯学習機関として、産業界はもとより社会からの高く評価されています」との祝辞を受けるとともに、一定の要件を満たす専門課程の修了者への大学院入学資格付与など、中央教育審議会の提言に触れて、「文部科学省としては、これら提言等を踏まえ必要な制度改正を行うなど、専修学校振興のための種々の施策を推進していく所存であります」と、文部科学省の専修学校振興への意思が示されました。